# 「バリアフリーフェスタかながわ2017」の総括

資料１

## １　目的

　神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議（以下「県民会議」という。）では、障害者、高齢者、妊産婦、乳幼児連れの方などが安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できる街づくりを進めている。

　その一環として、県内の障害者等の関係団体や事業者・ＮＰＯ団体、県民からの公募委員、行政の協働により、「バリアフリーフェスタかながわ2017」（以下「フェスタ」という。）を開催した。

　１～４回目は相模原市内の商業施設にて開催したが、５回目となる今回は初めて開催場所を移し、横浜市の大学構内の施設にて開催した。

　このフェスタは、県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案したもので、その目的は、平成24年９月に県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街を体感してもらうことで、バリアフリーの街づくりに対する理解を深めていただくことにある。

〔企画・立案に当たっての考え方〕

・　県民会議の理念に基づき、県民・事業者・行政が協働で実施する。

・　継続的にフェスタが開催できるよう、持続的かつ安定的な開催形態を意識して準備を進める。

・　県民から広く意見を募るよう、開催会場は誰もが自由に参加できるような場を設定する。

・　当事者団体・事業者団体からの参加を積極的に促す。

・　県民から多くの意見をもらえる形式とする。

・　来場者が気軽・身近に感じられる参加型・体験型の内容を中心としつつ、来場者が「大変だね」「かわいそう」では終わらない、バリアフリーの必要性、支えあいの心を自然と身につけるものとする。

・　ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、来場者の誰もが安全・安心に参加できるように配慮したイベントとする。

・　フェスタ全体で統一的なテーマを設定して、各団体のコーナー運営に取り入れる。

## ２　概要

(1) 日時

平成29年10月８日（日）　11：00～15：30

(2) 場所

慶應義塾大学日吉キャンパス協生館（横浜市港北区日吉４番１号１番地「日吉駅」徒歩１分）

(3) 主催

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

構成：学識経験者(4)、障害者団体(7)、関係団体(3)、事業者(8)、公募委員(2) 計24名

(4) 内容

　ア　テーマ「みんなで学ぶバリアフリー～ともに生きる社会に向けて～」

イ　県民会議構成団体を含む15団体が12コーナーを企画し、運営

ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーの実施

〔スタンプラリーの達成条件〕

エ　コーナー３か所以上のスタンプをスタンプラリー台紙に集める。

オ　上記に加えて、アンケートへの回答を景品引換の達成条件とする。

カ　同日、県主催の手話普及推進イベントや、中野研究室等が企画した「体験を通して学ぶ心のバリアフリー」が開催され、スタンプラリーの周るコーナーと設定するなど相互の乗り入れを図った。

 (5) 参加者数　※〔　〕は昨年の数字

ア　コーナー参加者数　1,014名〔1,830名〕（各団体でカウントした参加者の合計人数）

イ　スタンプラリー達成者数　 158名〔 247名〕

## ３　アンケート結果・分析

(1) 来場者向けアンケート

　　　来場者へのアンケート結果は別添のとおり。来年度に向けた分析は下記。

　　ア　昨年度までの来場は７割強が会場に来て初めてイベントを知った人であったが、今年は各団体のお知らせで知った人が４割強、知人・友人から知った人が３割強であった。

　　イ　本イベントが神奈川県で行われていることを知らなかったという意見もあり、次回以降も積極的な広報を行う必要がある。

(2) 実行委員会向けアンケート

　　　実行委員へのアンケート結果は別添のとおり。その中から主な意見の分類分けを行い、課題を抽出した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 分類 | 内容 |
| １ | 目的・考え方 | ・　大学構内での実施となったため、来場者は本フェスタを目的とされた方に限定されてしまい、昨年に比べ来場者数の減少になってしまったのではないかと思う。バリアフリーの周知・啓発等を目的とするならば、集客性が高い場所の選定も必要ではないかと思う。 |
| ２ | 開催日時 | ・　15時30分終了のため、来場者数が減ったように思う。 |
| ３ | 開催場所 | ・　アクセスがよかった。　・　会場が奥まってわかりにくかった。・　他イベントとの同時開催であったが、場所が離れていて一体感がなく、もったいなかった。・　前年に比べると搬入・準備が楽であった。・　会場が手狭な感じがした。・　駅前ということもあり、多数の集客があったので良かったと思う。・　今回通路での呼び込みや声かけをしてはいけないことになっていたが、場所が分からず困惑し迷っている人達が多かった。・　数年おきに会場を変えることは良いと思います。・「フェスタ」なので、呼び込みやチラシ配布等の規制が厳しくない会場を選定すると良いと思いました。・　他にあれば会場を変えた方が良いが、今回の会場でもう一度開催もよいのではないか。・　音楽演奏ができる会場が好ましい。・　前日にある程度準備できるところがよいと思う。・　開催会場確保はとても難しいと思いますが、出来れば合同企画の会場が点在しない場所が望ましい（候補地➡大和市のシリウス）。・　会場は、今回と同じ慶応日吉キャンパスがいいと思います。今年みたいに、中野先生のゼミや手話イベントといった他のイベントと連動して、エリア全体で盛り上げる仕掛けも必要です。 |
| ４ | 集客・周知 | ・　駅前ということもあり、チラシ配布は効果あったと思う。・　今回は障害に目的意識のある人達のご来場が多かったように思う。一方で一般の人がいなかったので、普段障害に意識のない人のご来場や体験が少なかったと思う。・　今回のような意識の高い人と、普段バリアフリーとは無縁の人との両方の人が来てもらえるような場所と対策が必要に思います。・　フェスタの認知度が低いこと驚きました。来年で6回目になるので、とにかく宣伝をしっかりすべきだと思う。・　大学生の参加がほとんどなかったのは残念だった。・　駅近くで家族連れが多く来られたのが印象的だった。・　福祉イベントはどのような形でも集客層が偏りがちになります。有名人を巻き込んで、普段あまり興味が無い方に足を運んでいただく工夫は大切と思います。・　他イベントの広告は入口あたりで見かけたが、本イベントのチラシ等の掲示がなかった。 |
| ５ | 事前準備 | ・　チラシが完成するのが遅く、広報期間が少なすぎた。 |
| ６ | 運営体制 | ・　大学構内での開催であったので、もう少し学生との交流が図れるイベント等があればよかった。・　すべてを把握している方（出来れば手話も出来る方）を、入り口に常に配置してほしいと思う。・　展示スペースまでの案内板がもう少しあれば分かりやすかったと思いました。・　大学との連携や日吉駅の商店街との連携も検討したい。・　コンサートが始まると周囲のブースは聞こえなくなったので、各コーナーを休み時間にして、全員でコンサートに集中してはどうか。・　ステージはあった方がいい。心をひとつにできる瞬間は必要だと思う。適宜、目的や案内などアナウンスもあった方がよかったのではないか。子どもや視覚障がいの方への配慮にもなったと思う。 |
| ７ | 同時開催 | ・　バリアフリーフェスタ目的の来場者以外にも幅広く様々な人に参加していただけるため、同時開催はいいと思います。さらに関連イベントが増えるといいと思います。・　普段できない体験が一度にできるため良いと思う。・　つながりのある企画・内容、開催目的なので同時開催はとても良いと思います。今後もそのように企画するべきだと思います。相互理解も大事ですし、知り合うきっかけとしても良いと思います。・　複数のイベントと同時開催はとても良いことだと思うので、もっと早い段階から横のつながりをもって計画した方が良いのではないかと思いました。・　複数のイベントがあり、スタンプラリー等などあり来場者の方も積極的に各ブースに行かれた感じがしました。・　中野委員の企画の影響で視覚障がい者当事者の参加はやや増えたように思う。同じ会場で出来ればよかったように思う。 |
| ８ | その他 | ・　当社（JR東日本横浜支社）の取組に限定せず、「交通」の視点でみればバス等の取組を紹介したり、「鉄道」の視点でみれば他社の取組を紹介したりすることで、交通事業者のバリアフリーに対する取り組みを紹介することが可能と考えている。・　各コーナーのPRタイムもあってもいいのでは。・　駅前でチラシ配りをしましたが、ここにものぼり旗があると目立っていいと思いました。スタッフ用のはっぴ等もお祭りの雰囲気を高められるので検討したいところです。WEB等でフェスタのこれまでの変遷や県からのメッセージを伝えられるようにしたいです。また新たな障害団体の参加があっていいと思います。現在の社会問題もフェスタで伝えたいところです。 |

## ４　対応策

(1) 目的・考え方

　　普段バリアフリーに興味のない人が訪れる場所をイベント開催場所とするよう工夫する。

(2) 開催日時・場所

　※資料２で説明

(3) 集客・周知

　　引き続き、可能な限り当日の呼び込みも行う。また、いまだにフェスタの知名度が低いとの指摘があったので、今後も県民会議構成団体の協力も頂きながら、広報に努める。

(4) 事前準備

　　委託業者との連絡調整に難があり、チラシ等ができるのが遅かった。来年度は、デザインは事務局や委員会で考案し、印刷のみ委託を行うなどの対応をとる。

(5) 運営体制

　　開催場所の特性（今回であれば大学施設）を生かすことを考える。また、可能であればステージは設置する。

(6) 同時開催

　　関連性のあるイベントと共催、同時開催できるようにする。

(7) その他

　　各団体が合同で企画することなどが可能なよう、早い段階から準備を進める。また、今年度は過去のフェスタのちらしを当日掲示することで対応したが、来年度フェスタにおいても過去のフェスタの変遷を伝えることができる方法を考える。